

令和7年度 東京都立大泉桜高等学校 学校経営報告

東京都立大泉桜高等学校長
尾崎 肇

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

①学習活動

- *全教科を通じて、「主体的な学び」の推進、基礎学力向上を図った。
- *「チャイム着席」の実施、「あいさつ」の励行、「家庭学習の習慣化」(ア 予習の必要な授業展開 イ 宿題・課題を課す授業 ウ 小テスト・復習テストの実施) 自力学習時間毎日1時間以上を目標にして、教員に共通認識させ学校として継続した指導体制を定着させた。
- *美術デザイン系では、絵画Ⅱ及びビジュアルデザインⅡを選択した生徒64名が、絵画、ビジュアルデザイン作品を制作しての「卒業制作展」を練馬区立大泉学園ゆめりあホールで実施した。
- *全学年で一人1台端末を活用し、Classi等を活用した授業を展開するとともに、課題配信、ガイダンス、健康観察等を実施した。
- *夏季休業中の講習については、5教科、美術、情報科目等16講座を実施、85名が参加した。

②進路指導

- *本校の学校教育の中軸にキャリア教育を据えて、3年間を見通した進路指導計画を作成し、キャリアガイダンスの授業の一層の充実を図るとともに、「進路達成プログラム」教材を活用し進路先の調査・研究を充実させた。
- *学習時間調査をもとに、結果のフィードバックを丁寧に行い、進路選択を意識づけさせるよう支援した。
- *19期生の四年生大学現役進学率は49.7%、美術系大学等現役合格者33名であった。

③生活指導

- *遅刻指導、頭髮・服装指導を繰り返し徹底、集会等でSNSの使い方について指導した結果、授業を含めて、暴力等のない安全で、落ち着いた秩序ある雰囲気を持続することができた。無連絡の遅刻人数については、昨年度と同様だった。
- *校則の見直しについて、生徒会を通して生徒の意見を聞いたが、見直しまでには至らなかった。引き続き、見直しについては、調整を図っていく。
- *特別な支援が必要な生徒に対して学年・生活指導部と特別支援教育コーディネーターを中心に委員会を実施。SCや巡回心理士の助言のもと自立活動支援を行った。

④特別活動・部活動

- *部活動加入率は84.3%となり、小・中学校時代まで集団活動を体験していない生徒が多い。また、運動部活動を希望する生徒が一定数あるものの継続した活動は難しい。
- *体育祭、文化祭は、全学年同時開催をし、体育祭は一般公開なし。文化祭は一般公開を実施。防災訓練は、災害概要説明、起震車体験、避難所体験、簡易担架等作成、簡易トイレの組立、AED訓練を練馬区区民防災課、練馬区大泉消防署と連携し、本校で実施した。
- *美術部が東京都明るい選挙ポスターコンクールで東京都優秀賞2名、入選1名受賞した。吹奏楽部が夏に行われた東京都高等学校吹奏楽コンクールC組で金賞、冬に行われた東京都高等学校アンサンブルコンテスト管楽四重奏で銀賞を受賞した。フェンシング部が関東大会に男女共に出場、関東選抜大会女子サーブル5位等、様々な大会に出場し入賞した。

⑤健康づくり

- *交通安全教室やセーフティ教室・薬物乱用防止教室等を実施し、生徒の安全に配慮した。
- *スクールカウンセラーが生徒の意識調査を実施し、その結果を生徒のメンタルケアや個別指導に活用した。この他、巡回心理士を昨年に引き続きお願いし、生徒のメンタル向上に努めた。さらに、コンディションレポート活用にも努めた。
- *昨年度に引き続き、都教育委員会のエンジョイススポーツプロジェクト事業を活用し、ボッチャ等新しいスポーツや、専門家による健康に関する講義を行った。スポーツや健康に関する関心を高め、スポーツの楽しさを感じることができた。

⑥募集・広報活動・地域交流

- *学校見学会、学校説明会、個別相談会、美術特別推薦説明会は、HP で事前予約により1回の参加人数を制限して実施した。外部説明会は、都立高校全体の説明会以外にも参加し、対面で個別相談を実施した。結果として1475名の中学生・保護者の来校や相談があり、昨年比では417名の減少となった。
- *中学校訪問を全教員で、在籍生徒数の経年変化を基に練馬・板橋区を中心に行った。
- *開校20周年記念として、同窓会から横断幕を寄贈していただき、本校のPR活動に役立てた。
- *教科「人間と社会」の授業では、学校外での体験活動、社会貢献活動を取り入れ実施した。

⑦学校経営・組織体制

- *学校評価アンケートで、入学して良かった(生徒)86.3%、入学させて良かった(保護者)88.0%で昨年度同程度の数値が得られ、満足度が高いことが分かった。
- *校内美化や環境整備にしっかりと取り組むことができ、地域からの評価も良かったが、ゴミ箱の設置について生徒から要望が上がった。
- *生活指導部の保健担当による生徒会の美化委員会指導の徹底によるごみの分別、持ち帰り運動を実施し予算削減・経費削減に貢献した。
- *次年度予算編成では、経営企画室が中心となり学校経営計画に基づき各教科・各分掌の申請を調整し適正に過不足なく予算編成した。
- *都の施策である職員室環境改善に取り組み、来年度完成に向けて委員会を中心に職員全体に環境改善を意識させた。

⑧ライフ・ワーク・バランスの実現

- *長期休業中では在宅勤務を推奨し、オンラインを活用した進路指導や、教材研究を行わせた。
- *時差勤務や在宅勤務、部活動指導員等の活用によりライフ・ワーク・バランスの実現を図り、業務負担の軽減にもつながった。
- *職員会議は、資料を印刷しないで端末で閲覧し、学校説明会の予約は電子申請を活用し、生徒・保護者への連絡は、印刷物よりオンライン統合型学習支援システムをなるべく利用するなど、業務の効率化に向けた取組を行った。
- *休暇取得の推奨、取得しやすい雰囲気づくりを推進した。

(2) 重点目標への取組と自己評価

- ### ①学習指導・生活指導・・・生徒が誇りを持って学校に通い授業を大切に、部活動・学校行事に主体的、積極的に取り組む姿勢を育てる。

【数値目標】◎自力学習時間 毎日1時間以上 (令和7年度実績 全校平均65分)
 ◎部活動加入率75%以上 (令和7年度実績84.3%)
 ◎1日当たりのクラス遅刻人数0.25人 (令和7年度実績0.27人)

【結果分析】

- *ICTを活用した学習において、各教科から配信で課題が提供され、学習しているが、「自力学習」という言葉のとらえ方が生徒によって異なるため、数値が減少したと考えられる。今年度の特徴は、将来の進路実現に向けた生徒が増える中で、1・2年では30分以下の生徒も2割存在して、2極化の傾向が見られた。
- *部活動は、運動する生徒も入学するとともに、兼部する生徒も増え、活動が活発する可能

性が見えてきた。

＊遅刻者は1日当たりのクラス遅刻人数が昨年度とほぼ同程度となった。

②進路指導・・・早い段階での希望進路決定、より高い目標を目指す意欲を育てる。

【数値目標】◎四年制大学進学率**40%以上**（令和6年度実績 50.6%、令和7年度実績 **34.5%**）

◎美術系大学・学部等現役合格者数実績**35名以上**（令和6年度実績 35名、令和7年度実績 **20名**）

◎看護・福祉・教育系進学者数**45名以上**（令和6年度実績 22名、令和7年度実績 **22名**）

◎文系理系大学・短大の進学者実績**60名以上**（令和6年度実績 63名、令和7年度実績 **47名**）

◎進路決定率**95%以上**（令和6年度実績 98.3%、令和7年度実績 **72.4%**）

【分析結果】

近年、大学入試は総合型選抜や学校推薦型選抜など、「年内入試」で多くの受験生を確保する大学が増えている。特に、中堅層の大学にその傾向が強く、本校生徒の志望する層とも重なっている。専門学校でも募集の前倒し状態が伝統校や中堅校に広がっている状況である。進路状況は、18期生に比べ大学進学者が減少し、専門学校進学者は同じ値であった。今後も総合型選抜志向、学校推薦型選抜の志向は続く傾向であるが、アピールできる内容（部活・課外活動・ボランティア活動など高校生活で頑張ったこと）・体験の充実・深化が必要になってくる。特に、一般受験を考えている生徒にとっては、基礎学力を向上させ志望する進路にあった学力の定着が課題である。

今後も本校のキャリアガイダンスの充実を図るとともに、生徒一人一人に合った進路の選択、外部模試などの結果を見据えて1年次からの学力向上と計画的な進路指導が必要であり、校内外の学習とあわせて学年、教科、進路などの情報連携が必要である。

③募集対策活動・・・本校の特色を理解して目的意識をしっかりと持った生徒が多く入学を希望する学校をつくる。

【数値目標】◎令和8年度入試応募倍率を一次募集において、**1.1 倍**を目指す。（令和7年度実績 一次募集 **0.92 倍**）

◎体験授業（入試対策講座を含む）の参加者を **500 名以上**にする。（令和7年度実績、**369 名**）

◎学校見学会・学校説明会・個別相談会等による来校者数は **1800 名**を目標とする。（令和7年度実績 **1475 名**）

◎HP 更新回数**190回以上**（令和7年度実績 **429 回**）

【結果分析】

＊募集対策は本校の重点課題であり、中学校訪問や塾訪問では新規に訪問先を開拓するなど、本校をより広く知ってもらおう努力をしている。しかし、近年、中学生の早期進路決定を受けて今年度の倍率は、1 倍を切る結果となった。

今後は、本校を志望する生徒が一定数いることを踏まえ、早期進路選択に関わる中学2年生等にPRする努力を重ね、中・長期的視野で募集活動を行う必要を感じた。

④学校評価・・・生徒から見た、学校生活に対する満足度の向上。

【数値目標】◎入学して良かったと感じる割合 **90%以上**（令和7年度実績 **86.3%**）

◎進路選択に生かされていると感じている割合 **85%**（令和7年度実績 **90.9%**）

【結果分析】

＊学校評価アンケートの結果から、「入学してよかった」の項目は目標値には届かなかったものの依然として満足度は高い結果が得られた。これは、美術の授業内容の充実や英語・数学の習熟度別授業の実施、単位制高校の特徴でもある選択科目の充実が評価されていると考えられる。一方、施設については、母体校の校舎を使用しているため、全体的に古く、不満の声が年々高まっている状況である。また、教員による規範意識やマナー等の生活指

導について、指導基準が不明確であるという不満も見られた。

＊多くの生徒・保護者は、単位制の特徴を活かした本校の教育活動や進路学習への満足度が高く、大学や専門学校への進学も実績を上げている。これは、1・2年次に実施しているキャリアガイダンスをはじめとしたキャリア教育の実施と総合型選抜等に向けた小論文指導や面接指導が成果をあげていると考えられる。

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 募集・広報活動の徹底

応募倍率は、今年度は0.92倍と昨年度より減少した。進路実績、生活指導の徹底で学校生活は充実してきていると考えているが、単位制の制度のもと美術、福祉の2枚看板だけでは普通科高校としての募集定員を埋めることはできていない。駅からの距離が遠いというハンディキャップを埋めるだけの普通科高校としての魅力を出していくことが、喫緊の課題である。

HPやSNSを活用した情報発信の他、教員による中学校・学習塾への積極的かつ複数回の訪問を徹底させつつ、中学生やその保護者さらに地域の方々に、学校・生徒の様子を見てもらう機会を増やす等、魅力ある募集・広報活動のさらなる工夫が必要である。

(2) 単位制を活用した特色ある教育課程の編成

本校の特色を生かした教育課程の実施、観点別評価の工夫、一人一台端末を活用した生徒一人ひとりにあった個別最適な学びの充実、学校設定科目の内容の工夫を引き続き行っていく。

(3) 教員の授業力の向上

次期学習指導要領への対応及びオンライン学習推進のために以下の試みを実施した。

① ClassiやTeamsを活用した授業を推奨した。悉皆の各年次研修の授業研究で、研究協議会を開催し意見交換をするOJTを定着させた。

② 平成22年度から継続して実施してきた

○チャイム着席の実施

○あいさつの励行

○家庭学習の習慣化（具体的には、予習の必要な授業展開、宿題・課題を課す授業、小テスト・復習テストの実施に加え、週末課題を課して家庭学習の習慣化を図る。）は継続実施で定着を図った。オンライン統合型学習支援システムの有効活用も進んでいる。

(4) 第一希望の進路実現を図る進路指導の充実

高校3年間を見通した進路指導計画を作成し、生徒、保護者の目に見える形で提供して、生徒の進路目標実現の準備を円滑に行った。また、具体的な進路希望に沿った講習や補習、推薦などに対応する面接や小論文指導等をきめ細かく設定して、生徒が意欲と高い目標をもって進路に向けた準備ができるように対応したが、今後は、様々な教科学習についても、データに基づいた個別最適化を進め、個々の進路希望に対する支援体制を充実させる。